

---

# 軌跡

わー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

軌跡

### 【Zコード】

N2017S

### 【作者名】

わー

### 【あらすじ】

1人の男の物語

自分で1人で生きてきていらないのに気付き成長する  
お話

## 前編（前書き）

1人の男の物語

自分で1人で生きてきていながら気付き成長し自分で店を開く  
お話

今まで事を・・・そして未来を

ふと。思つ

なんで、また

何でこうなったんだって

頑張りとか何かが足りないのか？

よくわからん

どうしたら

どうしたらいいんだ？

でも、俺は目標に向けて頑張るしかない

（祖母の死）

高校の時やんちゃ坊主だった。

でも、バアちゃんの前だけは素直になれてた。優しい気持ちにさせる力があった。

そして、そんなバアちゃんが癌になつた

バアちゃんは強かつた。

本当に強かつた。

今思うとバアちゃんは  
分かつてたんだな

格好いいよホントに

死ぬ時苦しそうだつたのに  
最後は苦しいそうに見えなかつた。

むしろ、スゴい穏やかで  
なによりバアちゃんの顔が  
笑つてるように見えた

俺はちつさい時から、ジイちゃん（小学生の時に亡くなつてゐる）バアちゃんが大好きで大好きで仕方がなかつた。

そして、何より2人は俺の支えだつたんだ

会いてえなあ

生まれた時は皆笑い我が泣き  
死ぬときは私は笑い皆が泣く

これが出来たら人生どんなだつたとしても幸せだよ

じいちゃんばあちゃん

俺は出来るかな?

（依頼）

ばあちゃんが亡くなつて

前以上に親が家に帰つて来なくなつた。

元々浮氣してたのは知つていたし

そもそも、親を親と思ったことが高校生まで全く無かつた。

2人とも朝から晩まで仕事して逢つことは全くなかつたし

だから、ばあちゃんとじいちゃんが好きなのかも。 。  
ずっと近くに居てくれたから

その代わり

親の居ない奴らの気持ちがちょっと分かる

でも、親の居る奴らの気持ちは全く分からなかつた。

だからこそ、どちらとも遊んでも途中でついていけなかつた。

で、見つけた。

子供なりの逃げ道を

自分を騙し隠し

人には心は見せない

という方法を

親父が家に帰つてこないなんてどうでも良かつた。

そんな時オカソが襖を開けて

言つんだ

『お父さんを捜して』  
つて

今にも死にそうな感じで

オカソがクライアントになつた。お金は取れないけど

「オカソ」

オカソと呼べるようになったのが高校生の後半

初めて親を実感出来た。  
簡単な事だった。

それは弁当

毎日作つてるのがオカソだつて気づいた事がきっかけだった

ばあちゃんが作ってると思つてた。

でも、違つた。

オカンだった。

その瞬間何かが変わつた

オカンが弁当を毎回作ってくれたから元に戻れた

胃袋を掴んだら強いな

食の力は強いんだな

（ 検索 ）

オカンに検してと言われ

親父を検し始めた。

まずは周りの仲間に  
顔写真 車の車種 歳を伝え  
俺も探し始めた。

そして、仕事をしながら  
約3ヶ月休み無く探し続いけていた。

転機訪れた。

車に俺の携帯を忍ばせるのに成功した。

GPS使って親父を見つけた

女の家に居た  
子持ちの女と

その後朝まで張つてたら親父が出て來た。

親父が俺に向けて一言

『お早う御座います』だった

俺に気付かなかつた。  
複雑だつた

オカソには

女の家と家族と親父の居る時間を伝えて

取り合はず終わった。

その後、家族会議をする事になり

親父、オカソ、兄、俺、叔父さん  
と話すことになった。

開口一番がオカソに向けて

『結婚した時から好きじゃない別れてくれ  
だった

そうだったんだ。

俺達兄弟3人は俗にいう愛の結晶では無かつたんだ。

おかソが子供みたいに泣いた  
だからキレた

口クに知らない親父が俺に話しかけ来た

『お前は頭が弱い』

だつてや

お前は俺に気付かなかつた癖によへ重つよ

それに女とは何も無いってわ

バカだね本当に

女の家を調べて仕事場も調べて浮気の裏も取つてゐるのに

そして、俺の役割は全て終わつた。

後はオカンとあいつの話し合いで離婚した。

離婚して少し経つてから兄に親父から

金を貸してくれと電話があつたらしい  
貸すわけ無いのにアイツ頭が弱いね

女とは別れ  
家に戻りたいだとも言つてたらしい。  
その間一言も謝罪はしなかつたそうだ

一時が経ち

バイト先で知り会つた人に

『ラーメン屋さんで働かないか?』

と誘われた。

飲食店やサービス業に興味があつたので受ける事にした。

その人の良く行くラーメン屋さんの社長が  
新しくお店を開くので若くてやる気のある奴を探してゐ

つて事で

俺にお呼びがかかった

この時期は俺は高校の大親友とラップをやって楽しんでた。

ラップは高校からやつてたが

この時期は本当に楽しんでやれてた。

ラーメン屋さんの事を伝えたら

『頑張れ！！』と

後押ししてくれた。

食べにも来てくれるとも

そして、ラーメン屋さんの就職が決まり働く日が決まった。

（店そして店長）

俺と社長含め3人の社員

あと、バイト・パートで5人

計8人で始また。

最初の仕事はネギを大量に切つたもう1人の社員と二人で

この人は自己中心的だった。

すぐに、この人とは合わなそうと思った。

なので自分を騙し隠し

この人とは

『仲良くやれる』と

新しく自分を作り上げた。

社長が店長は俺にやつてもうつ

とずっと言つてくれていた時間が経ち店長が決まった。

俺じゃなかつた

何となく予想はしていた。

そうは言つても俺はまだまだ若い力ギ

悔しいし悲しいし

社長に騙されたとも思った。

何でかを聞いてみたくなった。

簡単な答えだつた

『若い』

そう

それだけの答え

バイト・パートの1人1人が

『有り得ない』とか

『無理』

とか

『ついて行けない』とか

色々と慰めてくれた。

あの人

店長は嫌われてた

俺与えてくれた役職は

『チーフ』

訳が分からなくなつた。

『恋恋恋』とかじやなく『チーフ』

同情からだと思つ

ムカついたし嫌な気持ちになつた。

たが

辞める事は考え無かつた。  
したつてくれるバイト・パートもいる

俺に会いに来るお客様も居る

何より接客が楽しかつた。

仲間にお客様に  
救われた。

窃盗の事件が起きた。

パートのおばさんが  
お金が無くなつた  
財布の中身が少なくなつた抜かれたと

店長に相談したのが始まりだつたらしい。

その後、バイトの女の子も無くなつた  
立て続けに抜かれたという事件が起きた

そして、店長も

『俺も無くなつたと思う』と

俺に話してきた

取られてないのが

俺、社長、バイトの男の子  
3人だけだつた

店長は俺以外の人に先に聞いたらしく

俺の所に来たのが最後だった。

もちろん全員

『やつてない』と

答えたらしい

なぜ『らしい』と曖昧なのは

店長が俺にその事件の話をするまで

俺はその事実を知らなかつた。

俺の事を最初から疑つていたらしい

全員知らないと言つ事で

俺が

犯人になつた

全く信頼されてなかつた

やつと丸くなれたのこ

やつと足を洗つたのこ

やつと真つ並になつたのこ

やつと、

店長の俺を見る眼が  
冷たいイヤな眼だった

ガキの頃から見慣れてきた眼なのに

一度丸くなつてから見ると

無性に

辛く悲しく

そして、虚しくなる

また、元に戻るのか？

前の自分に、 、 、

（事件後）

辞める決意をした

店長と社長が居るときに  
2人にその事を伝えた

店長に疑われた事は伏せて話しあは進めていたら

店長が俺に

『辞めるなんて言つな

『休みをやるから考えろ』と

言つてきた

俺は休みをもらい

違うことを考えた

奴は何か企んでる

それが何であれ見つけてやりたくなった

俺には大親友がいる

大丈夫だと自分に囁いた

休みから戻るとバイト・パートが

よそよそしくなっていた

スゴく働きづらい  
キレそうになつた時

店長が

血几セミナーのパンフレットを持つてきた

宗教的なものでもあった

コレが俺を辞めさせない理由だとすぐに気付いた。

だから、話を詳しく聞く事にした。

そつから面白いぐらい勧誘する。

『ココをやれば元気になれる昔の体験をプラスに出来る

『僕の親2人も僕が誘つてやり始めたらスゴく良くなつた

『仕事が楽しくなる

くだらなかつた。

こんなアホに使われて

何よりくだらいのが

『僕はここで気付かされたんだ。めんどくさがりだって』

『それが僕の深層心理なんだ』

深層心理って

そんなものなのか？

そして、良くなつた店長が言った。

気分が良くなつた店長が言った。

『やんちゃで癖が出たとしても僕は許す』

なる程

この事件を利用して

コイツは俺を犯人に仕立て  
自分だけは味方の状況を作り

俺を自分の犬にしたかったんだな

だから警察を呼ぼうと言った時に断るつて

訳が分からぬ事をしたんだな

俺は決めた

この事話しあをしつかり固めてから社長に伝える事を

奴に好き勝手やらせない

疑うならなら疑え

（事件真相）

社長に伝え

奴が居なくなるまでは

時間はそう掛からなかつた

バイト・パートも前に戻つていった

その頃に聞いた話しが

俺にとって

とても、

とても、、

複雑だつた

犯人は居る

でも、居ない

本当の被害は最初の一件だけ

後は

後は店長を困らさせ辞めさせる為

嘘偽りだつた

みなは俺が疑われると  
最初の頃知らなかつたらしい  
なので

立て続けに起こしたと

教えてくれた

気付いた理由が

店長に

『チーフには何も言つな』と

『何かおかしな行動したら教える』と

言われて気付いたらしい

その後

嘘を付かなくなり  
俺の休みが重なり

『やつぱりアイツががやつたんだと  
店長に言われ

『言つて出せ

時間が経ち

よそよそしくなつてしまつたと

みんなは店長が店長でいる事がイヤだつたらしい

謝りに來た

嘘付いてる眼では無かつた

1人のバイトの男の子だけ何も計画に入つて無かつた

その子は今思つと

抜かれ無かつた1人だ  
彼が一番の蚊帳の外だつから

よそよそしくしなかつたんだね蚊帳の外つてイヤな言い方だな

ゴメンな

でも

ぬこは

救われてたよ

あじがとう

夢は想像し描き楽しむもの  
目標は行動し実行するもの

両方とも

同じなのが

自分でしか出来ないと語りつ事

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2017s/>

---

軌跡

2011年10月8日23時24分発行